

# 世界津波の日とインドネシア

「世界津波の日」シンポジウムで基調講演を行なった福井照衆院議員（自民党国土強靱化推進本部事務総長、二階派）が15日、じゃかるた新聞のインタビューに応じ、「津波や地震の災害では一人の犠牲者も出さない、という思いをインドネシアの人たちに伝えたい」と語った。

福井議員によると、

「津波の日」というアイデアは二階俊博自民党幹事長が2010年2月に起きたチリ地震の際、出身地の和歌山県で津波に対する県民の関心が低いと感じ、発想したという。翌年に東日本大震災が起き、津波対策推進法を整備するとともに、18

## 「一人の犠牲者も出さない」

福井照衆院議員



54年11月5日に起きた安政南海地震の際、「稲むらの火」で村人を津波から救った和歌山県広川町の実話から11月5日を「津波防災の日」と定めた。昨年3月、訪日したインドネ

シアのユスフ・カラ副大統領に福井議員と二階幹事長が「世界津波の日」の制定を呼びかけ、快諾してもらったことから世界各国に働きかけ、国連での制定につながったという。福井議員

は福井議員らが各国に呼びかけたという。

高知県出身の福井議員は先月、高知県黒潮町で開いた「世界津波の日 高校生サミット」に30カ国から400人以上が参加したことを評価、

「各国で若い人たちに防災意識を持ってもらうきっかけになってほしい」と話す。

今後、アチエ州を中心にインドネシア各地に避難タワーを建設していきたいという。「私たちは津波や地震で一人の犠牲者も出さないことを目指している。それは無理とよく言われるが、そういう考え方で戦っている」と話した。

インタビュで話す福井議員＝木村綾写す

（田嶋徳弘）